

■都市の履歴を構想や計画に接続するための試論

(文責) 長崎大学 石橋知也

1. はじめに

本稿では、筆者が近年の研究や実践を通じて考えていることを試論として提示する。

まず、筆者の問題意識を整理してみたい。

1.1 都市計画・まちづくりにおける「履歴」の不在

都市計画や自治体の総合計画は、一定の将来ビジョンを掲げ、10年程度のスパンで更新されることが多い。しかし、その過程で過去の計画や施設整備の意図、社会的背景、失敗や修正の経緯などが必ずしも体系的に記録・参照されていない。結果として、計画の「断絶」が起りやすく、同様の課題が繰り返されたり、地域固有の資源や制約条件が十分に活かされなかったりする事例が見られる。

1.2 都市の時間性を巡る研究動向

都市計画史等の分野では、特定都市の成り立ちや都市形成過程の研究が蓄積されているが、それらは主に学術的成果として点在し、実務の計画策定や住民との協働の場に直結する形では整理されていない。また、土木計画や維持管理の分野ではライフサイクルマネジメントやアセットマネジメントが重視されてきたが、これも主に施設単位の管理に留まり、都市全体の計画履歴を包括的に捉える枠組みは未発達である。

2. 履歴とはなにか

次に、タイトルにも含めた「履歴」について述べる。「履歴」と「歴史」は異なる。広辞苑によれば、「履歴：人や物の過去から現在までの記録、特に経歴」「歴史：人間社会の過去における変遷・興亡のありさま」とあり、前者は現在のことを説明している

のに対し、後者は過去のある時を示しており必ずしも現在とつながっていない。考えてみれば、私たちがたまに作成する履歴書も、一通り経歴を書き終わったら最後に「現在に至る」と書くように、履歴はあくまでも現在を説明するためにある。

筆者も深く関わっている景観学の分野では、風景と履歴の関係を次のように説明する場合がある。

「風景はいつの間にかそこにあるのではなく、生活の記録そのものである。〈略〉自然地理の条件を時に素直に生かし、時に自然の地勢を相手に厳しい対応をしながら長い時間をかけて居住環境を形成してきた、私たちの祖先の営みが見てとれる。つまり、風景とは人と自然環境とが長年密接で良好な関係を結んできた履歴の証しとなる」¹⁾ 風景は、都市や地域における構想や計画の結果として現れてくると考えれば、構想や計画の議論と履歴の議論が接点をもつことは必然であろう。

3. 筆者が近年取り組んできたこと

さて、ここで筆者の研究の一部を紹介する。

3.1 水害常襲地における市街地発達過程の可視化

長崎県唯一の一級河川である本明川を対象に、その中下流域に位置する諫早市街地の発達過程について調査したものである。本研究では、地形図(1901年、1926年、1954年、1970年、1983年、2000年)、旧諫早市(研究対象範囲)の人口動態、県央災害史、本明川の水害履歴、本明川の河川改修履歴、諫早市の用途地域図、治水地形分類図、洪水浸水想定区域(想定最大規模)などの基本情報を収集した。この研究で最も重視したことは、これらの基本的な情報群を「統合図」として作成することであった(図1)。

これより市街地が水害とかかわりながらどのような変遷をたどったのかについて、一つのケースとし

て理解することができた。諫早市街地の約100年間の水害への対応の仕方の流れを視覚化できたこと、さらに水害常襲地における都市と水害の関係を概念化(図2)することもできた。研究の詳細については参考文献2)にて参照いただきたい。

3.2 キーワードに着目した総合計画の記述の変遷

長崎市は、一次から四次までの総合計画を策定してきた(表1)。この研究では、まず、長崎市が策定してきたすべての総合計画を精読し、その中から斜面に関する記述を抽出した(374記述)。次に記述の定量的な分析ならびに年代ごとの記述内容の変遷についての分析を行ない、長崎市の斜面への捉え方について考察したものである。代表的な図として、記述の変遷の全体像を示す(図3)。

その結果、変遷を整理する過程で、長崎市や全国での出来事との対応関係を照合する作業を通じて、これまでに策定されてきた総合計画は大きく「都市

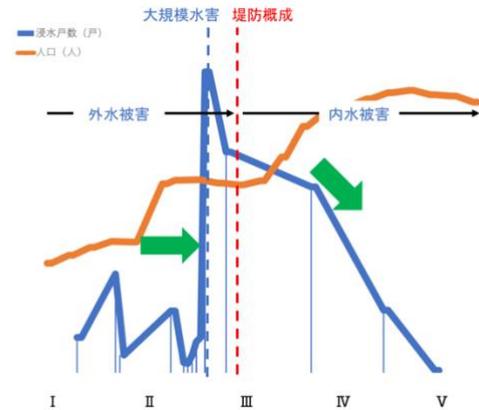


図2 市街地と水害の関係を表す概念図

施設充実期」「居住環境向上期」「空間有効活用期」の3つの時期に分けることができ、長崎市の斜面の捉え方の移り変わりが把握できた。また、長崎市における総合計画の斜面に関する記述の変遷は、次のように解釈できる。初期では地形的特徴がもたらす

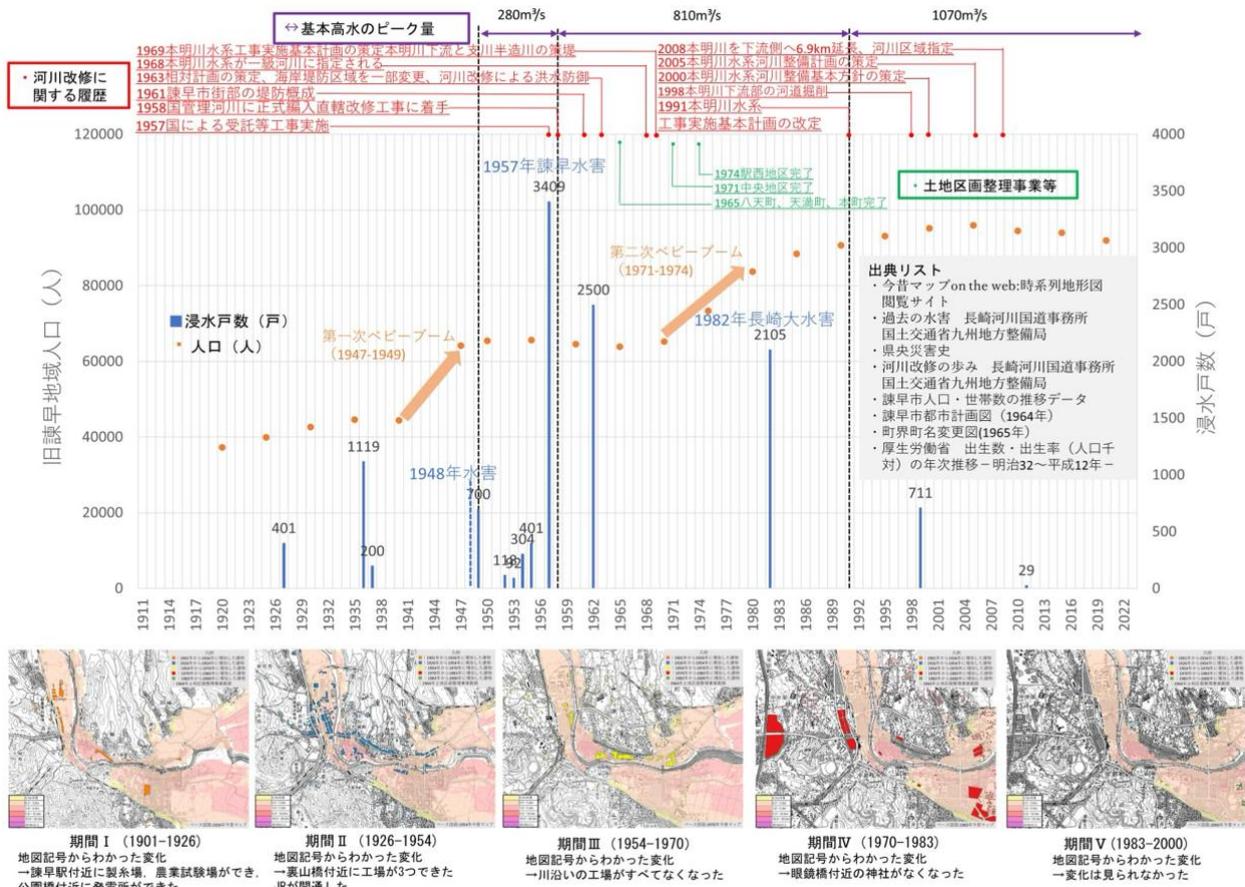


図1 人口動態、本明川洪水浸水戸数・河川改修履歴、地形図・土地区画整理事業の履歴等の統合図

表1 長崎市の総合計画（論文執筆時点）

策定年次	名称	計画期間	略称
第一次総合計画	1970年 85広域産業都市をめざして 長崎市総合計画	～1985	1a
	1974年 長崎市基本計画 昭和49年～55年	1974～1980	1b
	1980年 長崎市基本計画 昭和54年度～昭和58年度	1979～1983	1c
第二次総合計画	1985年 長崎市総合計画 ゆたかな新しい長崎の創造 -21世紀に向かって-	1984～1990	2a
	1992年 長崎市総合計画第二次基本計画	1991～1995	2b
	1996年 にぎわいCITY21 長崎市総合計画第三次基本計画	1996～2000	2c
第三次総合計画	2001年 長崎市第三次総合計画 共に育む交流拠点都市	2001～2005	3a
	2005年 長崎市第三次総合計画後期基本計画 平成18年度(2006年度)～平成22年度(2010年度)	2006～2010	3b
第四次総合計画	2011年 長崎市第四次総合計画 平成23年度(2011年度)～平成32年度(2020年度)	2011～2015	4a
	2016年 長崎市第四次総合計画後期基本計画 平成28年度(2016年度)～平成32年度(2020年度)	2016～2020	4b

制約や課題に対して早急に対応していく段階を経て、次に地形的特徴を認識する段階に至り、その後それらの特徴を理解したうえで利活用を舵を切るといった大きな流れを見出すことができる。すなわち、地形的特徴は、15年から20年くらいの間隔で「制約・課題→認識→利活用」という経過をたどりながら、各時代で影響をもたらしていると推察できる、と結んだ。同様に、詳細については参考文献3)にて参照いただきたい。

3.3 土木遺産の活用にかかわること

九州地域づくり協会より『土木遺産な旅のススメ』（編者：高山美佳）が発行された（写真1）⁴⁾。この本は、九州にある土木遺産を取り上げ、どのような背景で土木構造物がつけられるに至ったのか、そこで培われた技術がどのように伝搬したのか、そのような土木遺産を巡る様々な物語を旅としてつなげることを目指したものである。筆者もこの本を企画す

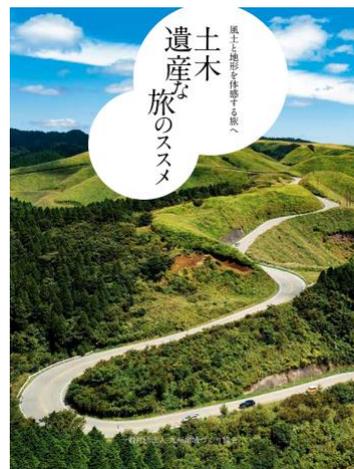


写真1 『土木遺産な旅のススメ』表紙

	土地利用	景観	観光	陸上交通	市街地開発	住宅	防災救急	公園とみどり	商工業	農業	上下水道	清掃	福祉	長崎市の主な出来事
都市施設充実期	1a 1970年	工業的・島嶼的利用	ゾーンの形成	道路の整備・拡張 産業道路の建設 トンネル道路の建設			災害の危険 防災対策	用後の緑地の確保	工業集積に不利な地形	不利な耕作条件	緑地の確保 排水の行状化 排水の整備			1976年島等長年航行
	1b 1974年	都市施設の充実						緑地の確保	大企業の本拠地が形成		下水道の整備			1982年長崎大水害 1983年緑地の確保完成 1984年長崎市防犯防犯組織発足
	1c 1980年	宅地化の積極的計画		交通網の整備 緑地帯の形成	市街地の拡大の開始	宅地開発の盛り	災害の危険 防災対策の推進	用後の緑地の確保	工業集積に不利な地形	不利な耕作条件	緑地の確保 排水の行状化	ごみ収集の効率化		1982年長崎大水害 1983年緑地の確保完成 1984年長崎市防犯防犯組織発足
居住環境向上期	2a 1985年					居住環境の整備	防災対策の推進 防災都市づくり				ゾーンの形成			1982年長崎市都市景観条例施行 1983年緑地の確保完成 1984年長崎市防犯防犯組織発足 1985年長崎市防犯防犯組織発足 1986年長崎市防犯防犯組織発足 1987年長崎市防犯防犯組織発足 1988年長崎市防犯防犯組織発足 1989年長崎市防犯防犯組織発足 1990年長崎市防犯防犯組織発足 1991年長崎水道建設100周年
	2b 1992年	「斜線都市」の積極的活用 都市施設充実期に引き続く都市景観の刷新	都市景観の刷新	交通網の整備 緑地帯の形成	市街地の拡大の開始	人口増加 居住環境の向上		用後の緑地の確保	大企業の本拠地が形成	不利な耕作条件	下水道の整備		ごみ収集の効率化	1992年長崎市防犯防犯組織発足 1993年長崎市防犯防犯組織発足 1994年長崎市防犯防犯組織発足 1995年長崎市防犯防犯組織発足 1996年長崎市防犯防犯組織発足 1997年長崎市防犯防犯組織発足 1998年長崎市防犯防犯組織発足 1999年長崎市防犯防犯組織発足 2000年長崎市防犯防犯組織発足 2001年長崎市防犯防犯組織発足 2002年長崎市防犯防犯組織発足 2003年長崎市防犯防犯組織発足 2004年長崎市防犯防犯組織発足 2005年長崎市防犯防犯組織発足 2006年長崎市防犯防犯組織発足 2007年長崎市防犯防犯組織発足 2008年長崎市防犯防犯組織発足 2009年長崎市防犯防犯組織発足 2010年長崎市防犯防犯組織発足 2011年長崎市防犯防犯組織発足 2012年長崎市防犯防犯組織発足 2013年長崎市防犯防犯組織発足 2014年長崎市防犯防犯組織発足 2015年長崎市防犯防犯組織発足 2016年長崎市防犯防犯組織発足 2017年長崎市防犯防犯組織発足 2018年長崎市防犯防犯組織発足 2019年長崎市防犯防犯組織発足 2020年長崎市防犯防犯組織発足
	2c 1996年	宅地の活用 都市施設充実期に引き続く都市景観の刷新		交通網の整備 緑地帯の形成	市街地の拡大の開始	人口増加 居住環境の向上		用後の緑地の確保	大企業の本拠地が形成	不利な耕作条件	下水道の整備		ごみ収集の効率化	1992年長崎市防犯防犯組織発足 1993年長崎市防犯防犯組織発足 1994年長崎市防犯防犯組織発足 1995年長崎市防犯防犯組織発足 1996年長崎市防犯防犯組織発足 1997年長崎市防犯防犯組織発足 1998年長崎市防犯防犯組織発足 1999年長崎市防犯防犯組織発足 2000年長崎市防犯防犯組織発足 2001年長崎市防犯防犯組織発足 2002年長崎市防犯防犯組織発足 2003年長崎市防犯防犯組織発足 2004年長崎市防犯防犯組織発足 2005年長崎市防犯防犯組織発足 2006年長崎市防犯防犯組織発足 2007年長崎市防犯防犯組織発足 2008年長崎市防犯防犯組織発足 2009年長崎市防犯防犯組織発足 2010年長崎市防犯防犯組織発足 2011年長崎市防犯防犯組織発足 2012年長崎市防犯防犯組織発足 2013年長崎市防犯防犯組織発足 2014年長崎市防犯防犯組織発足 2015年長崎市防犯防犯組織発足 2016年長崎市防犯防犯組織発足 2017年長崎市防犯防犯組織発足 2018年長崎市防犯防犯組織発足 2019年長崎市防犯防犯組織発足 2020年長崎市防犯防犯組織発足
	3a 2001年	ゾーンの形成		交通網の整備 緑地帯の形成	市街地の拡大の開始	人口増加 居住環境の向上		用後の緑地の確保	大企業の本拠地が形成	不利な耕作条件	下水道の整備		ごみ収集の効率化	1992年長崎市防犯防犯組織発足 1993年長崎市防犯防犯組織発足 1994年長崎市防犯防犯組織発足 1995年長崎市防犯防犯組織発足 1996年長崎市防犯防犯組織発足 1997年長崎市防犯防犯組織発足 1998年長崎市防犯防犯組織発足 1999年長崎市防犯防犯組織発足 2000年長崎市防犯防犯組織発足 2001年長崎市防犯防犯組織発足 2002年長崎市防犯防犯組織発足 2003年長崎市防犯防犯組織発足 2004年長崎市防犯防犯組織発足 2005年長崎市防犯防犯組織発足 2006年長崎市防犯防犯組織発足 2007年長崎市防犯防犯組織発足 2008年長崎市防犯防犯組織発足 2009年長崎市防犯防犯組織発足 2010年長崎市防犯防犯組織発足 2011年長崎市防犯防犯組織発足 2012年長崎市防犯防犯組織発足 2013年長崎市防犯防犯組織発足 2014年長崎市防犯防犯組織発足 2015年長崎市防犯防犯組織発足 2016年長崎市防犯防犯組織発足 2017年長崎市防犯防犯組織発足 2018年長崎市防犯防犯組織発足 2019年長崎市防犯防犯組織発足 2020年長崎市防犯防犯組織発足
	3b 2005年	ゾーンの形成		交通網の整備 緑地帯の形成	市街地の拡大の開始	人口増加 居住環境の向上		用後の緑地の確保	大企業の本拠地が形成	不利な耕作条件	下水道の整備		ごみ収集の効率化	1992年長崎市防犯防犯組織発足 1993年長崎市防犯防犯組織発足 1994年長崎市防犯防犯組織発足 1995年長崎市防犯防犯組織発足 1996年長崎市防犯防犯組織発足 1997年長崎市防犯防犯組織発足 1998年長崎市防犯防犯組織発足 1999年長崎市防犯防犯組織発足 2000年長崎市防犯防犯組織発足 2001年長崎市防犯防犯組織発足 2002年長崎市防犯防犯組織発足 2003年長崎市防犯防犯組織発足 2004年長崎市防犯防犯組織発足 2005年長崎市防犯防犯組織発足 2006年長崎市防犯防犯組織発足 2007年長崎市防犯防犯組織発足 2008年長崎市防犯防犯組織発足 2009年長崎市防犯防犯組織発足 2010年長崎市防犯防犯組織発足 2011年長崎市防犯防犯組織発足 2012年長崎市防犯防犯組織発足 2013年長崎市防犯防犯組織発足 2014年長崎市防犯防犯組織発足 2015年長崎市防犯防犯組織発足 2016年長崎市防犯防犯組織発足 2017年長崎市防犯防犯組織発足 2018年長崎市防犯防犯組織発足 2019年長崎市防犯防犯組織発足 2020年長崎市防犯防犯組織発足
空間有効活用期	4a 2011年	ゾーンの形成		交通網の整備 緑地帯の形成	市街地の拡大の開始	人口増加 居住環境の向上		用後の緑地の確保	大企業の本拠地が形成	不利な耕作条件	下水道の整備		ごみ収集の効率化	1992年長崎市防犯防犯組織発足 1993年長崎市防犯防犯組織発足 1994年長崎市防犯防犯組織発足 1995年長崎市防犯防犯組織発足 1996年長崎市防犯防犯組織発足 1997年長崎市防犯防犯組織発足 1998年長崎市防犯防犯組織発足 1999年長崎市防犯防犯組織発足 2000年長崎市防犯防犯組織発足 2001年長崎市防犯防犯組織発足 2002年長崎市防犯防犯組織発足 2003年長崎市防犯防犯組織発足 2004年長崎市防犯防犯組織発足 2005年長崎市防犯防犯組織発足 2006年長崎市防犯防犯組織発足 2007年長崎市防犯防犯組織発足 2008年長崎市防犯防犯組織発足 2009年長崎市防犯防犯組織発足 2010年長崎市防犯防犯組織発足 2011年長崎市防犯防犯組織発足 2012年長崎市防犯防犯組織発足 2013年長崎市防犯防犯組織発足 2014年長崎市防犯防犯組織発足 2015年長崎市防犯防犯組織発足 2016年長崎市防犯防犯組織発足 2017年長崎市防犯防犯組織発足 2018年長崎市防犯防犯組織発足 2019年長崎市防犯防犯組織発足 2020年長崎市防犯防犯組織発足
	4b 2016年	ゾーンの形成		交通網の整備 緑地帯の形成	市街地の拡大の開始	人口増加 居住環境の向上		用後の緑地の確保	大企業の本拠地が形成	不利な耕作条件	下水道の整備		ごみ収集の効率化	1992年長崎市防犯防犯組織発足 1993年長崎市防犯防犯組織発足 1994年長崎市防犯防犯組織発足 1995年長崎市防犯防犯組織発足 1996年長崎市防犯防犯組織発足 1997年長崎市防犯防犯組織発足 1998年長崎市防犯防犯組織発足 1999年長崎市防犯防犯組織発足 2000年長崎市防犯防犯組織発足 2001年長崎市防犯防犯組織発足 2002年長崎市防犯防犯組織発足 2003年長崎市防犯防犯組織発足 2004年長崎市防犯防犯組織発足 2005年長崎市防犯防犯組織発足 2006年長崎市防犯防犯組織発足 2007年長崎市防犯防犯組織発足 2008年長崎市防犯防犯組織発足 2009年長崎市防犯防犯組織発足 2010年長崎市防犯防犯組織発足 2011年長崎市防犯防犯組織発足 2012年長崎市防犯防犯組織発足 2013年長崎市防犯防犯組織発足 2014年長崎市防犯防犯組織発足 2015年長崎市防犯防犯組織発足 2016年長崎市防犯防犯組織発足 2017年長崎市防犯防犯組織発足 2018年長崎市防犯防犯組織発足 2019年長崎市防犯防犯組織発足 2020年長崎市防犯防犯組織発足

図3 記述の変遷の全体像

る段階から関わる機会を得て、コラム記事を執筆している。そこでは、「材料のたどり方・長崎の石の風景編」として、長崎の市街地を構成する様々な社会基盤が市内の石切り場から切り出された石によってつくられていることを、あたかも現場を歩くように（シークエンス的に）記述した。ここでも履歴・来歴が関心事となっている。

4. 都市の履歴を構想や計画に接続するために

以上を踏まえて、都市の履歴を構想や計画に接続するための基本的な考え方を示す。

4.1 scope を拡張すること (図4)

冒頭の問題意識にも関連するように、例えば行政における施策・計画づくりにおいては、比較的近い過去の範囲で課題や目標を検討しがちであるという問題がある。これに対して、過去を振り返って見ていく scope を拡張していくことが必要ではないか。そうすることで、課題や目標を歴史的な文脈で大局的に捉えることが可能となるだけでなく、より本質的な問題を模索することにもつながる。これによって、より実効性の高い施策・計画づくりが可能となるのではないか。

4.2 perspective を重ねていくこと (図5)

同様に、施策・計画づくりにおいては、比較的近い過去の参照から未来を思考しがちである点も課題であろう。これに対して、比較的近い過去の参照に加えて、往時の「未来へのまなざし」を重ねながら未来を思考することが重要であり、このことが施策・計画づくりの実効性を高めていこう。ここで重要なのは、懐古主義的に現在から過去へのまなざしを向けるのではなく、往時の位置に立って現在へのまなざしを向けることである。つまり、各時点における未来へのまなざしには、その往時の課題に向き合い解決策を模索した先人の思想が含まれるはずで、それが現代課題への参考知見になるからである。

本稿では、十分に検討された試論とは言えないものの、一定の考え方を示したつもりである。将来の都市や地域のあるべき姿を議論するためにも、履歴をどのように記述し、構想や計画づ

くり接続していくのかについて継続して議論していきたいので、皆様からの忌憚のないご意見をお待ち申し上げる次第である。

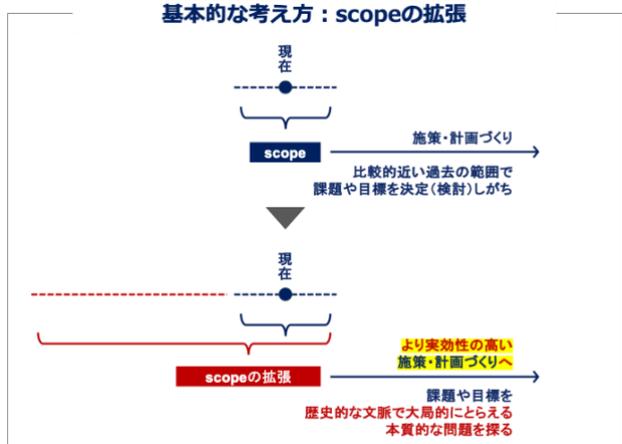


図4 scope の拡張

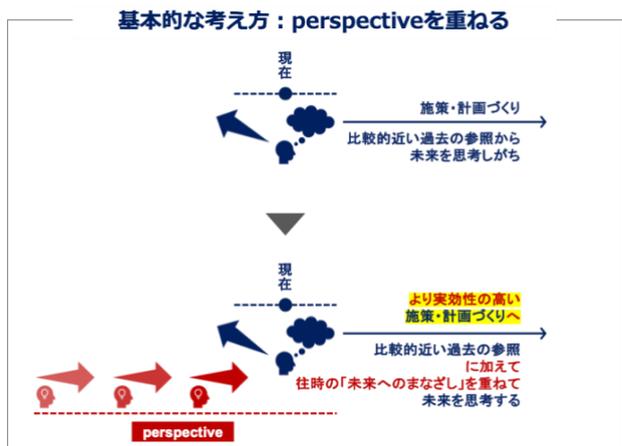


図5 perspective を重ねる

参考文献：

- 1) 仲間浩一：風景デザイン研究会著「風景のとりえ方・つくり方 -九州実践編」, 共立出版, p.48, 2008.
- 2) 津川翔・石橋知也：水害常襲地における市街地の形成過程-諫早市街地を事例に-, 土木学会, 土木史研究講演集, vol.44, pp.301-308, 2024.
- 3) 石橋知也・田中成龍：長崎市総合計画(1970-2016年)における斜面の捉え方の変遷, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), 76 巻 5 号, pp. I_495-I_505, 2021.
- 4) 九州地域づくり協会ウェブサイト：
<https://dobokuisan.qscpua2.com/book/>